

科目名	人間社会学						
英語科目	ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照					
開講期	春学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	河原 省吾, 塩谷 芳也, 惣脇 宏						

授業概要／Course outline

私たち一人ひとり生きていく中で、様々な社会と関わり、様々な人間関係を築いていきます。また、人生を歩む中で、私たちは、様々な悩みや問題に出くわします。人間社会学は、そんな私たちの一生のうちに起こりうる身近で切実な社会現象・社会問題を皆さんとともに見出し、分析したり、解決策を議論したりする科目です。そこで本授業では、私たちの人生を子ども期(思春期)・青年期・中年期・老年期といった4つのライフ・ステージに区切り、その中で生じる社会現象や社会問題を考察していくこととなります。それぞれのライフステージでは3つのテーマを取り上げますが、3つのテーマは、3人の教員が1つずつ担当し、それぞれの専門分野から講義をします。ただし、初回と最後(動画)の2回は3人の教員が合同で実施します。初回は、1つの人間社会学のテーマを3人の教員の専門分野からどうアプローチされているのかを考えます。14回目はまとめと臨時試験を行います。15回目はすべてのライフステージで重要課題となる他者とのコミュニケーションについて動画で講義します(オンデマンド)。なお、人間社会学は人間社会学コースの基盤となる科目です。人間社会学コースのすべての分野を網羅しているわけではありませんが、人間社会学コースの総論的な内容となります。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業(形態:遠隔教育(ビデオ・オン・デマンド等))
- 動画によるオンデマンド配信を行う

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回:イントロダクション:(河原・惣脇・塩谷) まず人間社会学のガイダンスとして、授業の進め方や単位の認定方法を説明します。その上で、3人の担当教員がそれぞれ自分の専門分野について紹介しながら、授業内容について説明します。

第2回:【子ども期】二者関係と三者関係(河原) 一者・二者・三者関係、対象移行を経て、こどもは社会に参入してきます。今回は、子どもの遊び・社会性・社会化について、事例をとりあげて考えます。

第3回:【子ども期】義務教育(惣脇)

子ども期において大きな比重を占めるのは学校教育です。とりわけ近代以降、義務教育が世界中に普及し、期間も長期化してきました。みんなが毎日学校に行く社会とはどのような社会なのかについて考えるとともに、児童労働やヤングケアラーなどの社会問題についても取り上げます。

第4回:【子ども期・思春期】思春期の逸脱(塩谷) 思春期の逸脱行動について講義します。飲酒、喫煙、薬物使用、暴力、安全でない性行動、自殺といった危険行動について、統計データに依拠しながら、社会環境との関連性について議論します。

第5回:【青年期】大学進学アスピレーションの格差(塩谷) 大卒と非大卒の差違は、現代社会の格差と不平等を考える上でもっとも重要な差違の1つです。それでは、大学に進学するか否かはどのようにして決まるのでしょうか。大学進学への意欲(大学進学アスピレーション)と出身階層の関係について、人びとのリスク回避傾向から説明するモデルを紹介し、大学進学意欲という本人の自由意志と考えられているものについても出身階層の影響があることを議論します。

第6回:【青年期】ひきこもり(河原) 社会に出ていくことで傷つき・挫折する「ひきこもり100万人」の語りについて考えます。当事者の声や事例をとりあげたいと思います。

第7回:【青年期】創造性(惣脇) 青年期は、「自分は何者か」を探求し、価値観を形成する時期であるとともに、創造性が大きく伸びる重要な時期です。この回は、人の創造性について研究している本学部卒業の大学院生を招き、創造性の測定方法や、創造性を発揮するための方略について学びます。授業内では、アイデア創出のワークに取り組み、自らの創造性をどのように引き出し、活用できるのかについて、議論します。

第8回:【中年期】労働と社会(塩谷) 労働とは何でしょうか。自然に働きかけることで生存に必要な価値を得る

という労働の原点から出発しつつ、社会的分業の高度化という観点から現代社会における労働について議論します。さらに、労働が個人と社会の接点となり、個人に多様なメリットをもたらすと同時に、搾取や不公正の場となることについても議論します。

第9回：【中年期】メンタルヘルス(河原) 社会問題の医療化・心理学化を話題にします。現代社会におけるメンタルヘルスの問題やその語られ方について、事例を取り上げ、考察します。

第10回：【中年期】リカレント教育(惣脇)

人生100年時代では、社会人になってからも学び直しが不可欠です。近年、日本でも注目を集めているリカレント教育(生涯にわたって労働と教育を交互に行うという考え方)を取り上げます。

第11回：【老年期】高齢化社会と教育(惣脇)

高齢者の自己実現の一環として、高齢者のための教育・学習があります。高齢者の雇用と定年などの問題についても取り上げます。

第12回：【老年期】自己実現(河原) 現代社会における高齢者の生きがいやアイデンティティについて。事例をとりあげて考えます。

第13回：【老年期】死に向き合う(塩谷) 死は誰にとっても避けられない問題であるが、その捉え方は多様です。講義では、死の社会学の成果に依拠しながら、日本人の死生観の変遷を紹介します。さらに、非伝統的な弔いの方法や終活といった近年の動きに着目しながら、超高齢社会である21世紀社会における死について考察します。

第14回：まとめと臨時試験：人間社会学のこれまでのテーマに関するまとめを行った上で、授業の内容について筆記試験を行います。

★ オンデマンド：ライフステージとコミュニケーション(河原・惣脇・塩谷)：あらゆるライフステージで重要課題となる他者とのコミュニケーションについて動画(90分)で講義を行います(2026年7月1日までにMoodleを通じて動画を配信します)。

事前・事後学修/Preparation and assignments

第1回：イントロダクション(河原・惣脇・塩谷)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第1回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(50分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第1回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(50分)

第2回：子どもの遊び・社会性・社会化(河原)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第2回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第2回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第3回：義務教育(惣脇)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第3回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第3回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第4回：思春期の逸脱(塩谷)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第4回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第4回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第5回：大学進学アスピレーションの格差(塩谷)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第5回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第5回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第6回：ニート・ひきこもり(河原)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第6回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第6回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第7回：成人式(惣脇)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第7回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第7回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する(100分)

第8回：労働と社会(塩谷)

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第8回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと(100分)

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第8回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第9回：現代社会とメンタルヘルス（河原）

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第9回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと（100分）

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第9回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第10回：リカレント教育（惣脇）

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第10回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと（100分）

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第10回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第11回：高齢化社会と教育（惣脇）

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第11回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと（100分）

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第11回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第12回：高齢者の自己実現（河原）

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第12回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと（100分）

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第12回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第13回：死に向き合う（塩谷）

事前学習⇒ Moodleにアクセスし、第13回の配布資料を参照し、授業内容を予習しておくこと（100分）

事後学習⇒ Moodleにアクセスし、第13回の配布資料を参照しながら、授業内容を復習する（100分）

第14回：まとめと臨時試験

事前学習⇒ これまでの資料を参照し、授業のまとめを行うこと。（100分）

事後学習⇒ 授業全体の振り返りを行うこと。（100分）

★ オンデマンド：ライフステージとコミュニケーション（河原・惣脇・塩谷）

事前学習⇒ なし

事後学習⇒ なし

授業の到達目標/Expected outcome

- ・われわれの一生におきる身近な社会現象・社会問題に気づくことができること。
- ・社会学を核とする多様な専門知識を獲得できること。
- ・複雑、多様な我々人間社会の課題に対し、社会学を核とする多様な専門知識を用いて分析し、解決の糸口を考えることができること。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- | | |
|---------|-----------------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 幅広い教養 | 【現代社会学部 現代社会学科】 |
| ・ 倫理性 | ・ 社会学における基礎知識 |
| ・ 創造性 | ・ 社会学をはじめとする社会科学の応用知識 |

履修上の注意/Special notes, cautions

- ・ 大学HPのMoodle上にワークシート・テキストがアップされるので授業の前と後に必ずアクセスすること。授業の内容を予習し、授業後に授業内容を復習してください。 ・ 人間社会学は現代社会学部・現代社会学科・人間社会学コースの基盤となる科目です。人間社会学コースを選択した人は「必修科目」になります。

評価方法/Evaluation

臨時試験60%、平常点40%

教材/Text and materials

教材（ワークシート、テキスト）：大学HP 学習支援システムMoodle（URL： <https://cclms.kyoto-su.ac.jp/>）に 毎回アップされます。

質問や相談の方法/Instructor contact

質問がある場合には、授業の前後に担当教員に聞いてください。

その他/Others

授業の前後で質問し切れない場合は、それぞれの教員のオフィスアワーなどを利用してください。